

●次回予告

山口幸一+田端昌良+水谷みゆき;  
フォトグラファー、アートディレクター、コピーライターの仕事展

例えば、写真を撮るのが得意であっても、どのように仕事につなげればよいのでしょうか。フォトグラファー、アートディレクター、コピーライターそれぞれの仕事を紹介し、加えて三者の役割がひとつになった仕事もお見せします。

大学で身につけた技能を仕事につなげることを提案する「就職セミナー」として開催いたします。

開催日 2003年11月14日(金)→11月27日(木)  
12:00→18:00 (16日、23日、24日 休館)

会場 名古屋芸術大学アート&デザインセンター



水谷みゆき 未来派 2003年



水谷みゆき 甘美派 2003年



山口幸一 "Mt. Fuji"

●開催中

新宮 晋 展  
SHINGU Susumu

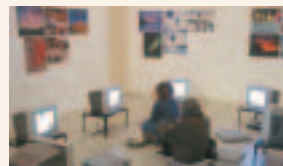
開催日 2003年10月7日(火)→11月4日(火)  
12:00→18:00 (日曜・祝祭日休館) \*11月3日は開館します。

会場 名古屋芸術大学アート&デザインセンター

現在、アート&デザインセンターでは、平成14年度及び今年度美術学部、造形科客員教授である彫刻家、新宮晋氏の展覧会を開催しています。

新宮氏は兵庫県三田市の山里の地にアトリエを設けて制作し、風や水などの自然の力を布や金属によって形にした作品やユニークな舞台装置・絵本の発表で国際的に高い評価を受けています。展覧会初日に行われた公開講演会には作品のファンはもちろん絵本のファンも訪れ、賑やかに幕が開けられました。

2000 - 2001年に実施された世界巡回のプロジェクト「ウインドキャラバン」は地球上の特徴的な場所で大自然の風の観察を目的としています。氏はこの活動等で第43回毎日芸術特別賞、紫綬褒章を受賞されました。



本展では、軽快な実作品3点と各地で行われたプロジェクトの写真・マケットをギャラリー-BEで展示し、ギャラリー-beの一角を使って、写真パネルとともに「ウインドキャラバン」を開催した6ヶ所で撮影された映像で同時上映の空間を演出しています。



EXHIBITION  
10→2004 1月 アート&デザインセンター 展覧会スケジュール

秋の企画展 新宮 晋展	10月 7日(火)～11月 4日(火)	BE+be
具象絵画作品展2003 絵画洋画科	11月 7日(金)～11月13日(木)	BE+be
古美術研修デッサン展 造形科	11月 7日(金)～11月13日(木)	Studio
山口幸一+田端昌良+水谷みゆき;フォトグラファー、アートディレクター、コピーライターの仕事展	11月14日(金)～11月27日(木)	BE+be
SUN Q会展	11月28日(金)～12月 4日(木)	BE+be
名古屋芸術大学留学生作品展	12月 5日(金)～12月11日(木)	BE+be+Studio
MP マジックポイント展	12月12日(金)～12月18日(木)	BE+be+Studio
日本画作品展 絵画日本画科3年	12月19日(金)～12月25日(木)	BE+be
冬期休館	12月26日(金)～1月 8日(木)	
楮から和紙～心の風景～村上典子展	1月 9日(金)～1月15日(木)	BE
After Remisen #5 中田由絵と長谷川直美展	1月23日(金)～2月 6日(金)	BE+be

Open 12:00～18:00 (最終日は17:00まで) 日曜・祝祭日休館 【入場無料】どなたでもご覧いただけます。

交通のご利用  
●最寄り交通機関をご利用の場合名鉄大塚線(地下鉄鶴舞線乗り入れ) 徳重駅下車西へ約1,000m徒歩15分。  
●急行電車の場合は西春日で普通電車に乗り換えるか下車してください。西春日から北西2,200m徒歩25分、西春日からはタクシーの便もあります。  
●自動車ご利用の場合  
一宮インターから10分、名神小牧インターから15分、名古屋空港から10分

特集  
Extracurricular Activities

Steering committee  
MEMBER  
H15年度  
アート&デザインセンター  
運営委員会メンバー

センター長 神戸 峰男  
委員長 高橋 綾子  
副委員長 藤松 由美  
津田 佳紀  
委員 岩井 義尚  
須田 真弘  
池側 隆之

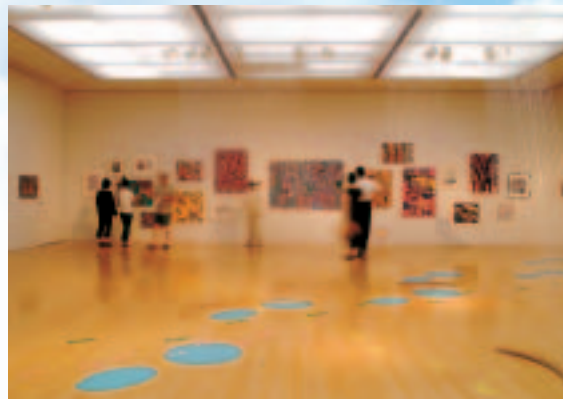
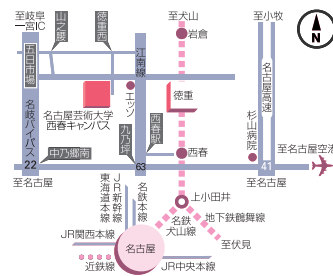
A&Dセンター 江坂恵里子

○編集後記

爽やかな秋空の下、A&Dセンターでは秋の企画展「新宮 晋 展」が始まりました。学生たちは実際の作品を鑑賞するだけでなく、発表のための準備やプロジェクトを遂行するための経緯を含めてリアルな作家活動を体感しようと新宮氏の公開講義に詰めかけました。今回の特集『課外活動のススメ。』では、学内というある種閉ざされた世界から一歩踏み出した時に見えるものを考えてみました。(江坂)

B!e Vol.3  
発行日 2003年10月25日  
編集・発行 名古屋芸術大学アート&デザインセンター  
〒481-8535 愛知県西春日井郡西春日町  
Tel. 0568-24-3025 Fax. 0568-24-3026  
URL http://www.nua.ac.jp  
デザイン 岩田知人(サンメッセ株式会社)  
印刷 サンメッセ株式会社

2003 Printed in Japan  
© Nagoya University of Arts, Art & Design Center



現代に生きるアフリカ・ブッシュマンの人の絵画を紹介。展示演出として、「雨」と「足跡」のインスタレーションを設置。

夏休みが過ぎて、後期の授業が始まると、日焼けした学生の顔つきに、少なからず変化が見い出される。もちろん教員の側も同じことだが、若者の変化は、それよりもっとビビッドに伝わってくるから、頼もしかったり、心配だったり...

つまり一ヶ月あまりの自由にコーディネートできる貴重な期間をどう過ごしたのか?この僅かな期間の経験や環境の変化は、若者の“意志”や“自意識”を顕在化させるのだ。

郷里に帰って、家族や友人との交流を深めたり、アルバイトに精を出して欲しいモノを手に入れたり、旅に出たり...当たり前の青春の1ページに、芸大生ならではの活動、つまり創作すること、発表すること、鑑賞することなどの経験が、しっかり刻まれていて欲しいものだ。

『課外活動のススメ。』

大学生活が、キャンパスの中だけで終始しないこと。じっくり創作に専心するとともに、“伝える”ことにも意識的なれば、きっと自分が「芸大生であること」の意義も確認できるのではないだろうか。機会を得て思いきって、授業外の時間を社会と接する機会に活用すべし、「課外活動のススメ」である。

さて、この夏、名古屋芸大の学生が中心になって関った学外の展覧会を二つ紹介しよう。高橋綾子(美術学部美術文化学科講師)

豊田市美術館  
ギャラリー

空、いのち、大地。  
「カラハリのアート展」  
2003年7月21日(祝)→8月3日(日)

学芸員資格取得を希望する4年生の授業「芸術計画演習」では、実際に一般の鑑賞者に向けて発信する展覧会の企画実施に関与します。今回は、豊田市美術館で実施する展覧会の展示計画と設営、さらに会期中の運営までを演習しました。授業以外の準備作業が大変...とは覚悟していたものの、実際、やっぱり大変だった!しかし、それだけ実働の実感は一ひとおでした。

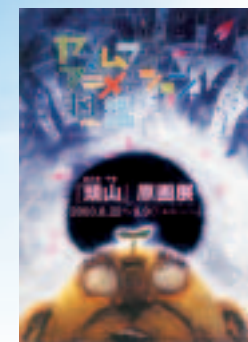
名古屋芸術大学  
アートスペース  
T.A.G. IZUTO

～ヤマムラアニメーション図鑑～  
『頭山』原画展  
2003年8月22日(金)→9月9日(火)

アート&デザインセンターのランチ企画として実施され、その展示運営は、美術文化学科の新一年生が中心となりました。展示設営も、一般の鑑賞者



初日のオープニング・パーティーは作家も来場。美術・映画の関係者も多数集まりました。「頭山」にちなんで、サクランボのカクテルで乾杯!特製「頭山おにぎり」も好評。



特集

Extracurricular Activities

『課外活動のススメ。』

今回の特集「課外活動のススメ。」を實踐し、そのプロジェクトを今も継続している。本学デザイン学部非常勤講師の稲波伸行氏に聞いてみました。

カルシウムカンパニー

「遊びの倉庫アジト」の企画運営に携わったメンバー有志によって、2002年に結成された。名古屋芸術大学のOB・学生を中心に、芸術系・教育系大学の学生やデザイン・美術の分野で活動しているメンバーが、「アート」「デザイン」「子ども」そして「地域づくり」をキーワードにさまざまなスタイルのワークショップやプロジェクトを企画運営している。

カルシウムカンパニーを作ったきっかけ

「遊びの倉庫アジト」は、名古屋港のガーデンふ頭の倉庫群をアートセンター化する為の実験活用プログラム、「アートポート」の企画事業として1999年にスタートした。8月中、夏休みのおよそ1ヵ月の間倉庫を子どもの遊び場として開放するという企画である。残念なことに事業としては2002年をもって打ち切りとなってしまったが、ノウハウを持ったスタッフがバラバラになってしまうのも忍びないという思いもあったので、カルシウムカンパニーという名前で団体を組織することにした。そうすれば、年間通じて活動する事ができるし、名古屋港以外でも活動することもできると思ったからだ。そしてなんとかして続けたいというスタッフ達の熱い思いから、助成金等で資金を工面し、様々な人の協力を得て、自主運営という形で2003年のオープンを迎えることができた。

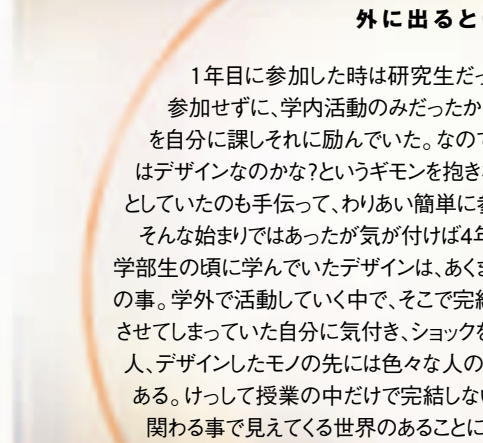
外に出るといふこと

1年目に参加した時は研究生だった。学部時代は学外活動に参加せずに、学内活動のみだったから、研究生時代は「外での活動」を自分に課しそれに励んでいた。なので、アジトのお誘いがあった時、これはデザインなのかな?というギモンを抱きながらも、「子ども」をひとつのテーマとしていたのも手伝って、わりあい簡単に参加することを決めたような気がする。そんな始まりではあったが気が付けば4年目を終えてしまった。学部生の頃に学んでいたデザインは、あくまで閉ざされた学校という世界の中だけの事。学外で活動していく中で、そこで完結するはずのないデザインをそこで完結させてしまっていた自分に気づき、ショックを受けた。見る人、使う人、作る人、売る人、デザインしたモノの先には色々な人の関わりがあり、そして社会との関わりがある。けっして授業の中だけで完結しない、自分が作ったモノを通じて社会と関わる事で見えてくる世界のあることに驚き、感謝した。

見えてきたもの

学外活動は人と出会う機会が多いところでもある。特にアジトでは、美術系以外の人に出会う事が多い。遊びに来る子ども達はもちろん、来場して下さる父母の方々、普段自分達の世代の中だけでしか生活してこなかった人間にとっては、これだけ密に他の世代と交わる機会是非常に少ない。それだけでなく「子ども」や「遊び」というキーワードのモトに集ってくるスタッフは、美術系だけでなく建築系、教育系、と幅広い。他のジャンルの学生と関わることでできる非常に貴重な機会だった。そして、それぞれが自分達の方法でイベントに関わり、子ども達にアプローチする。デザインだけがその方法ではない事、色々な回答があるという事を改めて彼等は教えてくれる。そこに俯瞰として見えてくるデザインの姿に気付くこともあったりして、またひとつ世界が広がりに嬉しくなったりもした。特に今年は、来場して下さった父母の方をはじめ、激励のお言葉をあちこちから頂いた。モノを介してこうして人同士が繋がって行く事に「デザイン」を感じはじめ、これはやはり「デザイン」なのだと思えるようになった。正直なところ、来年以降はどうかかわからないが、できうる限り続けて行きたいと思っている。参加者、随時募集中。

稲波 伸行 (2001年研究生修了)



名古屋芸術大学 アート スペース

T.A.G. IZUTO オープン

開廊記念 ..... 名芸大造形科展

2003年7月18日 ~ 7月29日



T.A.G. IZUTOは、本学造形科が中心となって運営する自主スペースとして、オープンした。開廊記念の企画として開催した造形科教員展は、立体作品と平面作品26点が展示された。彫塑・石彫・木彫・鉄造形・ソフトマテリアル・陶・ガラス・油彩・書・様々な素材による造形、それぞれの立体・平面・空間表現が一室に繰り広げられた、ギャラリーとしては他に見られない作品展であった。オープニングレセプションでは、造形科長、学長そしてスペースを提供して下さった『いづ藤』オーナーの挨拶で始まり、学生・大学関係者はもとより、中部地区で活躍中の作家の方々にも多数ご参加いただき、終始会話が充満していた。

美術学部造形科 岩井義尚

T.A.G. IZUTO では規約に基づき、公募も行っています。目的は、本学美術学部・デザイン学部在学(4年生)、卒業生の作家活動及び作品発表を奨励し支援することです。また、科主催の企画展、教員の展覧会や教員企画による学外の作家展を行うスペースとすること、とております。応募・詳細に関しては、造形科の岩井までお尋ねください。

お問合せ先  
Tel : 0568-24-0325 (代表)  
Tel : 0568-24-2893 (造形科直通)

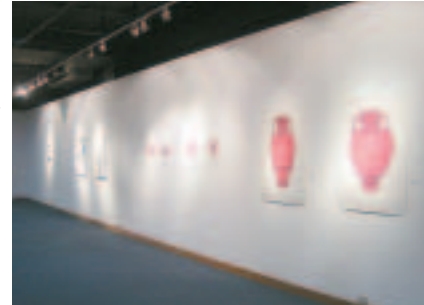
バンコク魅惑の交流展

2003年9月1日~9月10日  
スリナカリンウィロット大学, タイ

本学姉妹校でもあるスリナカリンウィロット大学はタイ、バンコクの市街地にあります。総合大学の中にある美術学部と本学は、数年前より学生・教員の交流が少しずつではありますが進展しています。お互い大学の中にギャラリーを備え、今回は昨年に引き続き2度目の交流展覧会のための訪問でした。

夏休みを利用しての10日間を本学卒業生4人のメンバーとともに訪問し、現地ではアジア人同士ということもあるのかフレンドリーな交流と歓迎を受けました。バンコクの街はどことも活気に満ちあふれて若者が多く、朝から晩までエネルギーが溢れていました。風土や気候が我々にもたらした感覚が新鮮なイメージとして心に残っています。タイは、国民の80%以上が仏教徒です。数多くの金色に輝く寺院と巨大でスマイリーな金仏像が約6時間の旅で目の前に出現します。われわれ日本人の「ワビ、サビ」感とは対称的にキッシュでエキゾチックなバンコクにはまだまだ魅惑が一杯です。

美術学部 洋画コース 須田真弘



中田由絵展

2003年9月5日~9月15日  
ギャラリーアパF2

長い時間森の中を歩いていると自分とその森との境界線が分からなくなる時がある。そして不思議なことを考えたり見てしまったりする。中田由絵の作品を見ているときにそんな事を思い出した。この個展は中田が7月にデンマークのブランデでのレミセン・インターナショナルワークショップに参加してから最初の展覧会。ブランデでの宿舎からスタジオまで10分ほど歩く線路沿いの茂みの中で、彼女は野うさぎが跳ねる姿や短い北欧の夏に咲く草花や雨の後に出てくるキノコを見たという。画面にもそうけた物たちが姿をあらわし楽園風景が描かれているが、見ている人がその楽園の傍観者になるのではなくその一部にいる、そんな気分させる展覧会であった。

美術学部 版画選択コース 非常勤講師 片山浩



※ブランデはユトランド半島の中央部の牧歌的な雰囲気のため小さな町で、夏の3週間に主にヨーロッパから集まった十数人のアーティストらが機関車の格納庫跡を利用したスタジオで作品を公開制作する。なお名古屋芸大がこのワークショップと関わって5回目今年参加した中田由絵と長谷川直美による「After Remisen #5」が来年1月にギャラリーBelにて開催される。

RELAY ESSAY

「文脈」について

眼が点になった、とはこのこと。

大安吉日の結婚式場。五十を若干越えたかと思えるその人は、色留袖、あか抜けた化粧。甥か姪の結婚式に出席する幸せな伯母様然としたその姿に、しかし私を驚かせたのは、いかにも高価そうな手の込んだ緞帯の図柄であった。赤ん坊の薫を抱く直衣姿の光源氏の図は、徳川美術館所蔵の「源氏物語絵巻」柏木(三)によるものに違いない。周知の通り、薫は、女三宮が柏木との間に設けた子である。光源氏はそれを知りながら薫を実子の如くに抱いている。

この帯を織った人は何を思って織ったのだろう。緞帯ならば、留め袖に合わせるの当然で、最多の出番は結婚式であろう。この美しい人は何を考えて、この帯を織り出したのだろう。不義の子誕生の図柄が場に相応しいはずがない。

安藤淑江

『源氏物語』の文脈を承知で結婚式にこの帯を締めるのは悪意か、でなければ悪趣味だ。絵画が物語の文脈とは無関係に独立した存在だという主張なら、その「帯」自体の「文脈」は、何をもちて知ればよいのだろうか。

その人は優雅に会釈して通り過ぎる。人に何らかの情動を与えるモノが芸術だというなら、その「帯」も私を落ち着かない気持ちにさせたという意味で「情動」を与えたに違いない。しかし、そこにいたるまでの「文脈」をくみ取り得ない作品は、絵画であれ工芸であれ、なにかしら作品として欠けたものがあるのではないかと、そんな気がする昨今である。

音楽学部教養部会 日本文学